

## 生徒の「好き」と「得意」を生かした ストレングスアプローチについて

### 不登校生徒の状況

対象生徒は中学校 1 年生の 9 月から欠席するようになり、教育支援センターや放課後デイサービスで過ごす期間が続いた。精神的に不安定であり、自傷行為に及ぶことがある。中学校 2 年生の 9 月から校内別室に登校できるようになった。部分的に授業への参加もできるようになり、中学校 3 年生では修学旅行に参加することができた。

### 具体的な取組

#### ○校内別室の活用

週に 1 日、継続的な登校ができることを自信につなげた。落ち着いた環境で当該生徒の好きな読書、創作活動、農作業等をすることができた。支援員の他、管理職、学年教員、地域の方等、多様な立場の関わりを大切に



#### ○趣味の写真を生かした取組

当該生徒の趣味である写真を通じて、教職員とコミュニケーションを取ることができた。校内の各種掲示物、配布物等に挿入する写真撮影の依頼をすることで、自己有用感の高まりにつなげた。



#### ○OSC との連携

週に 1 回の登校時には必ず 1 時間程度の SC との面談を行い、当該生徒の健康状態を把握するとともに、精神的な安定を図った。放課後に SC と支援員で情報交換をすることで、当該生徒の様子や支援の手だてについて共有することができた。

#### ○授業や行事への参加につなげる

登校時には、部分的な授業参加や行事参加を無理なく行うことができた。学年教員や担任が丁寧に説明することで、授業や行事の見通しをもたせ、学級への参加を促すことができた。当該生徒は授業や行事への参加を通じて自信を付けることができた。

### 成果

中学校 2 年生からは週に 1 回、継続的に登校できるようになった。また、中学校 3 年生からは表情が豊かになり、自ら撮影してきた写真を見てほしいと支援員に伝えられるようになった。学年教員の支援により、修学旅行に参加できた。

### 課題

当該生徒は精神的に不安定な部分があるため、引き続き、多くの教職員が温かく関わる体制を継続し、人と関わる楽しさを味わえるようにしていく。